



国土交通省

# NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課  
(担当) 竹内、長原  
(電話) 06-6949-6435

令和3年12月22日

## 「海運の重要性」と「外国船舶監督官」の二本立て 那智勝浦町立宇久井中学校にて出前講座を実施しました！

海運は、日本経済を支える重要な産業です。特に内航船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの、いまだ約半数が50歳以上となるなど高齢化は著しく、大量離職に伴う担い手不足が生じないように十分な数の若年船員の確保が必要とされています。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、中長期的視点に立った取り組みの一環として、近畿管内の各小中学校を対象に出前講座を実施しています。

今般、那智勝浦町立宇久井中学校において、近畿運輸局の外国船舶監督官と合同で出前講座を実施しましたので、お知らせいたします。

- 実施日：令和3年12月13日（月）
- 対象中学校：那智勝浦町立宇久井中学校  
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町宇久井1073
- 対象者：1年生24名、2年生29名
- 講師：近畿運輸局海事振興部船員労政課長 竹内 秀気  
(近畿内航船員対策協議会構成員)

近畿運輸局海上安全環境部首席外国船舶監督官 岩佐 裕二

- 講義内容：海運の重要性と外国船舶監督官
- 配布パンフレット等：
  - ・「What is 内航海運？」（日本内航海運組合総連合会）
  - ・「これが内航海運だ！」（ " ）



「C to Sea プロジェクト」  
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！

海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →

配布先：海運関係業界プレス



## 那智勝浦町立宇久井中学校で出前講座を実施しました。

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運(株)代表取締役社長）では、内航の若年船員不足に対する施策の一つとして、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子ども達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢として捉えてもらうことなどを目的に「出前講座」を実施しています。

今般、令和3年12月13日（月）、那智勝浦町立宇久井中学校において「出前講座」を実施しました。同校では、総合学習の時間を活用して出前講座を実施しており、年間を通して様々な分野から講師を招き、キャリア教育に積極的に取り組んでいます。当日の出前講座は、近畿運輸局の外国船舶監督官と合同で実施し、「海運の重要性と外国船舶監督官」をテーマに、5限目には1年生24名が、6限目には2年生29名が参加しました。また、出前講座の実施に際し、近畿運輸局勝浦海事事務所から新宮記者クラブおよび新宮中央記者会に事前プレスを実施していたこともあり、当日は地元新聞社やケーブルテレビが取材に訪れていました。このことにより、近畿内航船員対策協議会の取り組みを、受講した生徒だけでなく、幅広い世代に届けることができたのではないかと思います。

出前講座では、前半と後半にテーマおよび講師を分け、前半は「海運の重要性」について、後半は「外国船舶監督官」について講演しました。

まず、前半の「海運の重要性」について、同協議会の構成員である近畿運輸局海事振興部の竹内秀気船員労政課長を講師として、日頃、船員に接する機会の少ない生徒に、船員が働く産業である「海運」がなぜ重要か、「船員」はどのような仕事をしているかについて説明しました。



講演では、物流には陸運、空運、海運があることを挙げて、その中でも海運は、日本の貿易量の約99.6%を運んでおり、資源が少なく輸入に依存している日本において、安定的な経済活動と日常生活を支える非常に重要な役割を担っていることを説明しました。

私たちの生活に深く関わりがあることを理解してもらうために、輸入量が多い品目は何か、その用途は何かということを出題形式で出題すると、生徒達からは次々に手が上がり、非常に積極的に受講している様子が窺えました。

クイズ終了後、その答えとなる品目は100%船で輸入しており、船が止まると産業が停滞し、日常生活に支障を来すことを説明すると海運の重要性を理解できた様子でした。

次に、船の強みとして、一度に大量の物資を運ぶことができる点を紹介し、大量輸送の一例として、大型船のデッキの大きさはサッカーのフィールドが3面並ぶほどになることを説明しました。



一方、船の弱みとして、速度が遅く、物資の輸送に時間がかかってしまう点を紹介し、この

ような船の特徴により、船員は何日も船に乗ったままになり、仕事と生活が同じ場所になる特徴を、職住同一という言葉を用いて説明しました。

続いて、後半の「外国船舶監督官」について、近畿運輸局海上安全環境部の岩佐裕二首席外国船舶監督官を講師として、外国船舶監督官とはどのような仕事なのかについて説明しました。



外国船舶監督官という職業を聞いたことがない生徒がほとんどだったため、「日本の港に入港する外国の船には国際的に決められたルールがあり、そのルールが守られているかどうかをチェックする仕事」という簡潔な説明からスタートしました。

ルールを遵守しない船は、事故や火災を起こす可能性があり、モーリシャス沖で重油が大量流出したわかしお座礁石油流出事故（2020年）や、水道管の破損により町全域で1ヶ月を超える断水が発生した大島大橋貨物船衝突事故（2018年）を具体例にして、船が事故を起こすと周辺環境や住民に非常に大きな被害が出てしまうため、事故を未然に防ぐことの重要性を理解してもらいました。

ルールを遵守しているかを検査する具体的な方法として、船体の外観や水面を確認したり、実際に乗船して書類や設備を確認することを紹介し、生徒がイメージしやすいよう、外国船舶監督官が実際に検査している写真を見せながら説明しました。なお、検査する書類はすべて英語で記載されており、船長との会話でも英語を用いることから、英語の重要性を説明すると、あちこちの生徒から大きなため息が漏れ、その後会場は笑いに包まれました。

検査の結果、船に重大な欠陥があれば、是正を確認できるまで拘留する処分もあることを伝え、航行の安全確保と海洋環境の保全等に寄与していることを説明しました。



講演後には、授業時間が終了しているにもかかわらず、生徒や先生から「船に乗るには英検の何級が必要ですか」や「出港を禁止される船はどのくらいあるのか」といった質問があり、出前講座の内容に大変関心を持っていた様子でした。

最後に、「今回の出前講座を機会に、少しでも船や海に関心を持ってくれたらうれしい」と締めくくり、講演は終了となりました。

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会では、出前講座が生徒の職業観の形成につながることを期待するとともに、将来の職業選択にあたり「船員」の仕事が選択肢の一つとなるよう、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を引き続き積極的に行いたいと考えています。

（近畿運輸局 海事振興部 船員労政課）